



永守 重信
学校法人京都学園 理事長

ながもり・しげのぶ氏

1944年京都府生まれ。1973年に28歳で日本電産を設立。300社を越える連結企業グループに成長させ、世界No.1の総合モーターメーカーに育て上げた。2006年、米バロンス誌により「世界のベストCEO30人」の一人に選出。2014年、日経ビジネス誌が初めて実施した「社長が選ぶベスト社長」で1位に選出。2015年、全国発明表彰において「文部科学大臣発明賞 発明実施功績賞」を受賞。2018年3月、学校法人京都学園の理事長に就任。

実践的な学びと、英語教育で即戦力を育てる大学

2018年3月より、学校法人京都学園の理事長に就任しました。実はもともと、2025年にモータ工学の単科大学を作ろうとしていました。今後、モータの需要が爆発的に伸びるにも拘わらず、モータの研究者、技術者が世界的に足りないためです。世の中が変わり、半導体や情報等の華々しい学科が出てきて、モータを学ぶ学生がいなくなりました。実際、弊社の今年の新卒採用者も、モータの専攻者はゼロです。

しかし今後は、モータが「産業の米」になります。EV（電気自動車）もロボットもドローンも、全てモータで動いています。1980年までは鉄、それ以降は半導体だった産業の米が、2025～30年にはモータに代わるでしょう。欲しい人材と教育には、タイムラグが生じます。実際、鉄の頃は半導体の人材が足りませんでした。

そこで3年前に私財で永守財団を設立し、モータの研究者に研究補助金を支援する一方、大学新設に向けた調査を開始したのですが、大学をいから作るのは大変だと悩んでいたとき、京都学園大学から声を掛けてもらったのです。

経営者から見ると、日本の大学は企業が欲しい人材を輩出できていません。有名大学を出ているのに英語を話せない。日本電産（以下、弊社）は世界43カ国に拠点があり、2030年には75カ国に工場を造る予定ですが、共通語である英語を話せなければ、グローバルな仕事はできません。また、専門を学んだのに実戦力には程遠い。例えば経済経営学部を出ても、貸借対照表も損益計算書も理解できない。我が国の企業の99%超が中小企業なのに、中小企業経営を学んでいないからです。これは本来、大学で学んできて欲しいことで、それが即戦力ということです。大学はここまで教えたので、続きは企業、という接続が成り立たないと困ります。経営者として常々問題視していたことを解決できる時が来ました。また、本学では、英語が話せる即戦力を育てたいと思っています。

さらに、偏差値教育が日本の若者の活力をだめています。本学はノーベル賞を取るような人材を育てる大学ではなく、「企業、社会が必要としている人材」を育てる大学です。若者は偏差値教育より人間教育が重要で、教育次第で激変します。弊社も昔から大学名を

問わない採用を行い、入社後も学歴別コース等なく、同じ仕事をさせます。入社後の成績や昇進を社内調査してみても、大学名との関連性は全く見えません。世界シェア7割や9割を占める弊社の製品を誰が開発したかといえば、決して知名度が高いとは言えない大学を卒業した人たちなのです。

工学部設置構想で“トンがり大学”目指す

2019年4月、創立50周年を迎える京都学園大学は、京都先端科学大学へ校名変更します。第二の建学を機に既存学部のカリキュラム変革を進め、名実共に“トンがり大学”を目指します。トンがり大学は、国際的に通用する人材、専門性・先進性を身につけた人材を育成・輩出する特異性をもった大学の意です。KUAS(Kyoto University of Advanced Science)の英語表記で、国際通用性も高めます。

2020年には、モータ工学・ロボット工学等を学べる工学部・大学院工学研究科を設置構想中です。1学年の定員は200名で、最終的には半分を東南アジア等からの留学生にします。欧米の有名大学が利用するエージェントを採用し、他大学に例を見ないやり方で、質の高い優秀な留学生を集めます。本人が希望すれば卒業後はそれぞれの母国に帰してやり、帰国先の弊社の開発室でも採用しますし、他企業からもニーズの高い人材となるでしょう。これに伴い、留学生向け奨学金制度を創設し、新校舎として、京都太秦キャンパスに学生寮を含めた南館(工学部棟)を開設します。

さらに、世界で通用する即戦力としての英語教育に注力し、2024年度卒業生を目標にTOEIC^(※)650点を卒業要件とします。大学生の平均が約450点なので、200点を上げるのは簡単なことではありませんが、在学中に4年かけてこの最重要課題に取り組みます。

次に、弊社のネットワークをフル活用し、他企業にもご協力頂いて、世界各国で長期の就業体験をするグローバルインターンシップを展開します。例えばフランスに行きたい人はフランスで、3カ月から半年間ぐらい、じっくりと仕事に取り組み、単位も付与します。気に入った会社があれば、そのまま働いても良いでしょう。採用時にも、モータ専攻者は必ずモータの会社に

入れるようにします。そうすることで日本のように自分の専攻と全く関係ないところから何社も内定をもらう必要はなく、入社後すぐに辞めるといったミスマッチも起こらないでしょう。

このほか、就任に先駆け2017年には、授業料減免、シングルマザー等を応援する特別修学支援奨学金を整備しました。優秀なのに家庭の事情で進学を諦めている生徒を、高校の先生に紹介してもらう予定です。

10年後には世界大学ランキング200位以内

先日、国立大学同士の経営統合が報じられましたが、日本の大学の数はいずれ半分になっていいと思っています。私もマンモス大学を作りたいわけではなく、1学部1000人くらいの特色あるトンがり大学を作りたいのです。企業が採用したい大学で、国内5本の指には入りたい。そのためには、意欲的で教育熱心な教員に集まってもらうための投資を行い、既存の経済経営学部も、中小企業経営や英語教育、グローバルインターンシップを取り入れた実学重視のカリキュラムに改定したいと考えています。それから、あの大学に入りたいと思われることが一番大事なので、卒業生に有名な経営者が出てくれないと困ります。そこで、来年から私のビジネスの体験談と、この大学の理念を伝える「理事長講話」を開講します。また、様々な本学の経験を活かして起業する人を支援するために、将来的にはベンチャーキャピタルも設立する予定です。

大学経営に身を投じたことで、友人には困難な道を選んだと言われます。「ぜひ変えてくれ」という意見もあれば、「大学は企業経営のように簡単にいかない」「理想論だ」というものもあります。しかし、物事は全て理想から始まるので、まずは理想を徹底的に追います。10年後には世界大学ランキング200位以内を目指します。もちろん、企業のように時間軸の早い変化は難しいかもしれませんが、学生相手ですし、先生方も企業のようにガラッと変わりません。辛抱強く取り組む必要はありますが、まずは10年後を見て頂きたいと思います。



(※) [TOEIC[®] LISTENING AND READING TEST] [TOEIC[®] SPEAKING AND WRITING TESTS] [TOEIC[®] SPEAKING TEST] [TOEIC[®] WRITING TEST]
TOEICはエデュケーション・テスト・サービス(ETS)の登録商標です。この印刷物はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。